

# 豚便所

## 飼養形態からみた豚文化の特質

### The Toilet Pigsty

西谷 大

はじめに

①分類

②出土例

③成立と受容

④豚文化の特質

⑤弥生時代の豚

#### 【論文要旨】

豚便所とは畜舎に便所を併設し、人糞を餌として豚を飼養する施設である。豚便所形明器の分析からその分布には偏りがあり、成立の要因も地域によって異なることを明らかにした。豚便所は黄河中下流域で、戦国期の農耕進展による家畜飼養と農耕を両立させるため、家屋内便所で豚の舎飼いをおこない、飼料のコスト削減を目的として成立したと考えられる。一方豚便所のもう一つの重要な機能である廐肥の生産と耕作地への施肥との積極的な結びつきは、後漢中期以降に本格化する可能性が高いと推定した。黄河中下流域で成立した豚便所は、周辺地域へと広がるが、各地の受容要因は地域性が認められる。長江流域の水田地域の豚便所普及は、華北的農耕の広がりに伴う農耕地への施肥が、水田地にも応用されたことが契機になっている。一方、華南の広州市地域における豚便所の受容は、華北の豚便所文化を担った集団の移住による強制的な受容形態である。中国における豚飼養は、人糞飼料・畜糞・施肥を媒体とし、農耕と有機的に結合したシステムを形成しただけでなく、さらに祭祀儀礼などと複雑に結びつく多目的多利用型豚文化を展開した点に特質がある。一方日本列島で、中国的豚文化を受容しなかった一つの要因として、糞尿利用に対する拒否的な文化的態度の存在が指摘できよう。弥生時代には、豚は大陸からもちこまれ、食料としてだけでなくまつりにも重要な役割をはたした。しかし弥生時代以降の豚利用は、食料の生産だけにその飼養目的を特化した可能性が高い。その後奈良時代になると、宗教上の肉食禁忌の影響・国家の米重視の政策など、豚飼養を維持する上で不利な歴史的状況に直面する。食料の生産以外に、農耕・祭祀など多目的な結びつきが希薄だった日本列島の豚文化は、マイナスの要因を排除するだけの、積極的な動機づけを見いだせず、その結果豚飼養は衰退への道をたどっていったのではと考えられる。